

大学の経済価値

都留文科大 教授 川上 則道



広報「つる」の七月号に二年前まで東京都庁の幹部職員であった本学の日比野先生が「二年生の感想」という文を書かれている。そのなかで、先生は、「一村一品運動」や「県立美術館」と言うけれども、我が都留文科大も「いまでは全国どの自治体も真似できないものを持っている」と述べておられるが、私も同感である。

現在、市立の四年制大学は全国で十二あるが、横浜市、名古屋市、大阪市など大きな市が設置しているのが普通である。都留市のような人口三万二千の小さな市が設置している例は他になく、四年制大学をもつ市としては都留市の次に小さい市である高崎市でもその人口は二、三万を超えている。

人口約三万の、したがって、財政規模も小さい市が、授業料も他の公立大学並で、どうやって大学を成り立たせることができるのか。このことに関連して思い出すの

は、「市の教育費は、大学の費用に喰われてしまうので、小中学校や高校へ回す分が少なくなってしまううらだ」という話を、以前に、直接聞いたことがあることである。市の財政にとって大学が重荷になっているのではないかと、このような考えは、どうも、かなり広くなるといえる。都留市が小さな市であるだけに、そう考えたくなるのではないか。ちなみに、都留市の財政に占める大学の割合は約一七％であるが、高崎市の場合でもそれは約二％にすぎない。

だが、しかし、現在のところ、大学の設置していることによって、市の財政負担が重くなっていることは実質的にはないといっている。なぜ、そういえるのか。この紙面を与えられたの機会に、市民の皆さんにもぜひ知っていただきたいと考えたわけである。

大学の財政は、市の特別会計（一般の歳入歳出と区別して独立採算的に経理する）として処理されているが、収入は、授業料等の学生からの納付金がほぼ半分、残りの半分が市の一般会計からの繰入金である。

たしかに、市の一般会計からのこの繰入金は形のうえでは市の財政負担であるが、その財源としては大学が存在することによってもたらされる国からの地方交付税交付金の増加分がそのまま充当されている。ここで、地方交付税制度について説明せねばならないが、それは、簡単にいえば、税収の少ない地方自治体でも、必要とされるレベルの行政ができるようになるために、国税の一定部分を各自治体の不足額に応じて配分する制度である。その不足額は、定められた方法で算出される「基準財政需要額」と「基準財政収入額」との差に基づいて決められる。

大学の維持に掛かる費用も昭和四八年度から「基準財政需要額」に算入されるようになり、昨年度のばあい、その額は学生一人当たり三十万円に相当している。

つまり、仮に大学が無かったとした場合よりも、この額だけ「基準財政需要額」が増え、したがって、不足額も増え、したがってまた、地方交付税交付金も増えるということなのである。

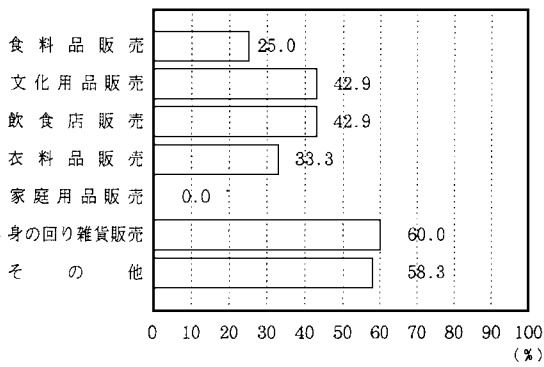
ただし、地方交付税交付金を何に使うかは制度上各自治体にまかされているので、交付金のこの増加分をそのまま大学に回すという慣行は市の政策に属すことである。市の大学政策の基本と言っても良いかも知れない。これが大学のこれまでの安定的な発展に大きく寄与したと思う。

というわけで、小さな規模の市であるのに大学が成り立っているのは、文科系の単科大学で安上がりのうえ経費節約の努力を行なっていることもあるが、地方交付税

社会学科学生による地域調査

下のグラフは、売上高に占める文大生の割合が10%以上の商店を表したもので、かなりの商店が文大生と係わりを持っていることがわかります。

売上高に占める文大生の割合が10%以上の商店の割合



(注)55軒の商店を対象に調査

制度によるところが大であり、市の財政負担が実質的には無くてもやってこれたのである。

他方、大学があることは、教職員合わせて約百二十名の職場を作り出し、二千名を超える学生を都留市に呼び寄せている。私が経済学を担当しているということで、前の大田学長から、都留大があることによって都留市（市財政ではない）に流入する金額がどのくらいか試算することを頼まれたことがある。細かく計算したが、約十六億円と出た。六年前の数値なので現在では二十億円に達していると思う。

以上、市と大学との関係について財政・経済の面からのみ述べてきたが、今後、大学をめぐる環境がいよいよ厳しくなりそうなので、この面について多くの方のご理解を得たかったのである。

もちろん、大学の本来の価値は研究・教育、広くいえば、文化の面にあるので、この面で市・市民と大学との協力関係をもっと発展させる必要がある。さる七月にも市の幹部の方々と社会学科のスタッフとこの点についての懇談会をもったのであるが、昨年発足した社会学科は「地域社会に根差す」という性格からして地元との関係を重視せざるを得なくなっている。私も社会学科へ移籍した者として微力ながら努力したいと思っている。